

会議等名	平成 24 年度 第 3 回 海老名市総合計画審議会
日 時	平成 25 年 2 月 14 日(木) 13 : 30 ~ 15 : 00
場 所	海老名市役所 6F 第 2 委員会室
出席者	委員：鈴木 守委員、鈴木 惣太委員、市川委員、西田委員、戸澤委員、濱田委員、森川委員、今井委員、内野委員、木村委員、今別府委員、菅谷委員、三部委員、杉山委員、 (欠席 森田委員) 事務局：財務部長 清水 昭、財務部次長 秦 恭一、財務部参事兼企画財政課長 橋本 祐司、企画財政課政策経営係長 告原 幸治、企画財政課政策経営係主事 久保寺 規雄、企画財政課政策経営係主事 西尾 夕香 傍聴者：なし

概 要：

1 開 会 (事務局)

2 議 題

(1) 平成 2 5 年度実施計画について

海老名市第四次総合計画平成 25 年度実施計画書に基づき、事務局から説明。

《質疑・意見等》

(委員) 資料 (平成 25 年度実施計画書) を事前に配布してほしかった。

→ かなりボリュームのある資料であるため、事前送付すべきところではあるが、平成 25 年度の予算編成作業と同時進行で策定を進めてきたため、時間的余裕がなく、事前送付が困難だった。また、後期基本計画策定に合わせて実施計画書の書式も変更したため、策定に時間が掛かったが、来年度以降は今回の書式を踏襲できるため、早めにとりまとめ、事前に送付できるよう努めたい。完全に冊子にした段階で配布するとなると事前送付は難しいが、例えば事業費についてはまだ記載がない段階等作成途中の段階で提示する等の対応は可能と考える。しかしながら、実施計画については、当審議会にてご了承いただいた後期基本計画に従って毎年実施する事業を個別に掲載しているものであり、掲載事業の可否を議論できるものではないことはご承知置きいただきたい。

(委員) 計画ができた報告ということでよいか。

→ そのとおり。

(委員) 19 ページの“民生委員児童委員活動支援”について、平成 25 年度は民生委員児童委員を増員することだが、現在何名で何名の増員を計画しているのか。また、どのような方法で増員を図っていくのか。

→ 現在 141 名であり、10 名増員を計画している。以前から、一人一人が受け持っている区域が広いために負担が大きくなってしまっている状況が続いていたため、現委員の負担を減らすためにも増員して対応したいというものである。もちろん、民生委員のなり手が少なく、選出は難しいと自治会からも聞いているが、自治会等の協力を得ながら増員をしていくこととなる。少子高齢化が進んでいる昨今の状況の中で、民生委員にはかなりのご協力をいただかなければならなくなるため、充実させていきたい。

(委員) 50 ページの“いじめのない学校づくり”について、すでに報道されているが、市内6校の中学校に1人ずつ配置するとのことだが、実績を見て小学校へも配置することは考えているのか。

→ 来年度から取り組む事業であるため、教育委員会で小学校についてはまだ検討していないと思うが、教育センターを拠点に非常勤職員一人を配置し、各中学校には“いじめ対策支援非常勤講師”を配置し、現場と中枢がうまくリンクした形で、いじめ対策を進めていくことを目標に、まず今年度から始めていくと聞いている。

(委員) 57 ページの“ロマンスカー海老名駅停車実現市民総力作戦”について、以前目標以上の署名をもらい小田急に要望書として提出されているが、その後の経過について随時状況報告してほしい。

→ 相手がある話のため、情報を提供するタイミングも考えなければならないが、要望としてまちづくり部へは伝えさせていただく。

(委員) 57 ページの“コミュニティバスの運行”について、上今泉ルートの変更が記載されているが、既に変更後のルートは決まっているのか。

→ 変更後のルートでの運行は新年度に入ってからであるが、ルートは既に決まっている。小田急線に沿って上今泉四丁目方面のルートを延ばし、停留所を2箇所増設する。これに伴い、時刻表も変更される。

(委員) 70 ページの“交番設置の要望”について、“安全安心まちづくり事業”にあるさがみ野安全安心ステーションの運営にも係るが、さがみ野駅は、海老名、座間、綾瀬、大和市民が利用しているにも関わらず、海老名市に所在しているために海老名市だけが安全安心ステーションの運営や交番設置の要望を行っている。本来であれば、座間市や綾瀬市等も合同で運営し、要望を行っていくべきではないか。

→ ご発言のとおり、さがみ野駅は利用者が3～4市に跨り、警察も海老名署、座間署、大和署の3署に跨ることを以前から県警は意識しており、3署でパトロールも行っている。さがみ野駅北側の少し離れた所に交番があるが、海老名市としてはやはり駅前にはほしいこと、近隣市の市民も利用する駅であること、厚木基地に近いことから治安の面で住民の不安も大きいということから、かなり以前より要望をしている。金銭面での理由が主だと思うが、県の事情により設置できないとのことだったため、相鉄の協力を得て、海老名市が独自に安全安心ステーションを設置した。交番があるのが本来の姿であるという考えは変わっていないため、今後も引き続き粘り強く要望していく。

(委員) 74 ページの“飲料水兼用貯水槽の整備”について、わかば会館の敷地内に100 m<sup>3</sup>の貯水槽を1基を埋設するという内容かと思う。また、75 ページには“地下水膜ろ過システムの整備”があるが、もともとは小中学校19校に飲料水兼用貯水槽を整備する計画ではなかったのか。

→ 100 m<sup>3</sup>の飲料水兼用貯水槽は、避難所の近くに貯水槽がある箇所については避難所に設置をしていない箇所もあるため、必ずしも全てではないが、基本的には避難所に設置することで進めてきている。未設置の学校については、検討を進めてきたが、最近、地下水を汲み上げ、膜を使って菌類等を除去し、飲料水として問題なく使えるシステムが開発されてきたため、地下水膜ろ過システムで対応ができないか、検証も含めて来年度1箇所設置していきたいと考えている。設置した場合は、水道水と併用して水を使用

することができるようになるため、水道料金の節約にも繋がる。また、貯水槽は水道水を使っているため、非常時に水道が止まった場合、貯水槽の中に入っている水を使い切ってしまうと終わりだが、地下水を利用すれば水道が止まっても利用できる。地下水はかなり深い地下水を汲み上げるため、水質もかなり良い。

(委員) 19校に貯水槽を設置したかったが、技術的な問題や新しい技術の開発もされたことから、現在未設置の箇所については検証した結果有用であれば設置していくというところでよいか。

→ 19校全てに設置したかったわけではない。現在市内全体で一定の水は確保できているが、市の独自の施設のみでなく市内に2箇所ある県の水道局が所有している貯水池もカウントをして充足できているという状況。県の貯水池は他の市町村も使用していることもあるため、市独自の施設としてあと3校(有鹿小学校、柏ヶ谷小学校、東柏ヶ谷小学校)に貯水槽を設置していく考えがある。今後は地下水膜ろ過システムの有用性を検討し、必要な箇所があれば検討していきたい。

(委員) 14 ページ“救急医療体制の充実”について、“大規模トリアージ訓練を実施”とあるが、“大規模トリアージ訓練”とはどのような訓練か。

→ トリアージとは、治療の優先度をタグの色で分けるタグのことであるが、大規模トリアージ訓練は保健福祉部での新たな取り組みであり、医師会や海老名総合病院等の協力を得て、行う訓練である。会場は確定していないかもしれないが、保健相談センターや総合病院南側の駐車場等を使って、市民にも参加をいただくような形で、医療関係者、市職員、消防職員等が協力し、大規模な地震等が発生しけが人等が出たことを想定して、怪我の度合等により怪我人等を分けて対応する等の訓練のことである。

(委員) 74 ページの“大型防災備蓄倉庫の整備”及び“防災備蓄資機材の整備”について、資機材等は市職員しか使えないのか。レスキューキッチンを貸し出してもらえるか以前聞いたところ、火の取扱いが危険であるため、市の職員でなければ使えないため、貸し出せないとのことだった。非常時には地域住民も取扱いに慣れておかなければいけないのではないのか。

→ 市内に大型防災備蓄倉庫を3箇所整備することで、現在上星小学校及び消防本部東側に完成している。平成25年度に残りの1箇所を南部に整備するよう調整を進めている。倉庫に収納する備蓄品については、基本的には大きな災害等があった際に、倉庫から各地区に搬送していくという備蓄方法である。コミセン等が避難所となっているため、コミセン等に必要な資機材等を搬送し、避難されている人に提供することになる。基本的に大型防災備蓄倉庫の中に一般市民が入ることはない。各地区に簡易なコンテナの防災備蓄倉庫があるため、いざという時には使っていくことになる。

(委員) 青少年指導員では毎年豚汁を作るが、レスキューキッチンは燃料がガソリンのため、手軽で火力も強く、1基で300食程度作ることができるが、扱う際は取り扱える者に同席してもらうように言われた。

→ 所管課に聞かなければ断定的な話はできないが、委員の発言のとおり、いざという時に行政だけでは手に負えないため、レスキューキッチンに限らず地域の方の協力が得られなければ対応し切れないことは東日本大震災の教訓により実感している。安全上の理由により貸出は困難かもしれないが、レスキューキッチンを含め、訓練という意味で

使用できたらいいのではないかと思います。

(委員) 60 ページ“市街地の再開発”について、厚木駅がとても不便に感じる。平成 25 年度に準備組織の設立及び関係機関との協議が記載されているが、踏み切り脇にあった銀行が移転したこともあり、水面下ではかなり事業が進んでいるのかと思うが、状況は如何か。

→ 地権者等との調整は今までも積み重ねてきているが、準備組合という組織を立ち上げたいと考えているのが平成 25 年度である。

(委員) 再開発事業は、組織が立ち上がってから数十年後に完成するイメージがあるが、それ程先になってしまうのか。

→ “厚木駅周辺の再開発”と聞くとかなり広い範囲での区域を想像されるかと思うが、現在検討を進めている区域は、ある程度実現の可能性がある区域としてコンパクトな再開発を目指している。厚木駅の前の県道の渋滞が問題になっており、県が整備しなければならないが、中々整備がされない状況である。再開発を検討している区域は、県道より西側で小田急線の南側辺りであり、市では地権者と協議を進めているところであるが、再開発の準備組合等が立ち上がれば以前から要望している県道の整備についても県に対しプレッシャーを与える大きな材料となると考えている。

(委員) 後期基本計画期間の実施計画は単年度の実施計画としたために今回の形式になっていると思うが、平成 25 年度実施計画は平成 25 年度の予算書と繋がると考えてよいか。

→ 事業費として記載している箇所については、予算の括りと必ずしも一致はしていないが、かなりの事業がこれから議会へ提案する予算書のそれぞれの事業と一致している。

(委員) 今後市議会にて事業内容の可否や事業費の規模等が審議されるという認識でよいか。

→ そのとおり。

(委員) 継続事業について、何年度から始まった事業なのか、翌年度以降の見通しはどのようなのか等もう少し見ると事業の繋がりや将来が見えやすくなる。例えば 35 ページの“図書館運営業務”について、備考に“平成 25 年度は、指定管理者制度導入の準備を行う”旨の記載があり、事業費が 1 億 3,600 万円となっているが、平成 26 年度以降は具体的にどのように運営を行い、どの程度の経費が掛かるのか。

→ 1 億 3,600 万円は、現在の図書館の運営に掛かっている経費であり、平成 25 年度に係る経費である。平成 25 年度については、指定管理者制度導入に向けた準備を行うが、そのために係る予算は現在付いていない。今現在民間企業に管理を委託しているが、それとは別に指定管理者制度という管理そのものを民間企業が主体となって行うことができる制度への移行の検討を進めていきたい。

(委員) 1 億 3,600 万円は維持管理費と考えてよいか。

→ 施設の維持管理については別の事業になる。この事業については運営費であり、現在図書館業務の委託を行っているため、図書館の運営に係る人件費等の委託費が主なものである。

(委員) 3月に市民活動支援センターの交流館が開館され、指定管理者が運営をしていくことが想定され、民間に委託する施設が増えていると思うが、運営費は下がるものと思っ  
ていいのか。

→ 行政改革において、市では無駄な経費を削減するよう努めているところであり、人件費についても市の予算の大きなウェイトを占めている。地方公務員は、地方公務員法という法の縛りを受けて仕事をしなければならない。民間企業の場合は勤務時間等縛られるものが公務員より少ないため、同じサービスで、人件費を多く掛けずに運用する方法も取れる。また、民間のサービスに関するノウハウを取り入れ、民間の活力や資金等を活用するよう積極的に民間への委託を進めていく。

(委員) 指定管理の導入や民間への委託によって、後期基本計画期間の5年間の中でどの程度の削減が見込めるのか審議会として意見を述べるができると思うが如何か。

→ 101 ページの“効率的な行財政運営の推進”という政策の中の事業で、102 ページに“総合窓口業務の運営”として総合窓口業務の民間委託にむけた検討を進めることを記載している。巻末に目標指標の一覧を掲載しているが、主なものだけを掲載しており、全てを掲載しているわけではない。しかし、掲載はしていないが、それぞれの事業に対し、細かい指標をなるべく設定するようにしており、計画に基づき事業を執行した後に評価をする業務を別の委員会で行っており、その場では目標に対しどの程度の効果があったのかを検証している。また、行政改革の計画も別にあり、数値目標を立てて改革を推進するような業務も行っている。

(委員) 34 ページの“(仮称) えびな市民大学及び大学院の創設”について、どのような構想を描いているのか。

→ 平成 26 年度に全面開校を目指し、検討に入っている。市民活動センターの交流館が3月にオープンする予定だが、その隣にレクリエーション館という健康増進機能を備えた施設を平成 26 年度夏頃完成を目標に現在整備を進めており、2館の完成と合わせた時期に全面開校することを目標にしている。大学の趣旨は、地域で活躍される方の育成や、生涯学習として様々なことを学びたい方、市政に関し勉強したい方等様々な目的があるため、カリキュラムの設定を今後進めていくが、平成 25 年度については開校の準備及びプレ開校ということで、これまでも生涯学習として市では様々な講座を設けてきたが、市民大学を目指した中でどのようなカリキュラム設定がよいか、どのような運営方法がよいか他市の事例も踏まえ、平成 25 年度中に検討していくため、現段階では細かい部分まで決まっているわけではない。1年間かけてじっくり検討していく。

(委員) 検討委員会を設置して検討していくと思うが、是非市民からの意見や要望も吸い上げるようにしてほしい。

(委員) 17 ページの“介護ボランティアポイント制度”について、以前、元気なうちに介護をし、ポイントを獲得し、自分が介護を受ける際にポイントが使えるというシステムがあったと思うが、この事業は同じ内容か。

→ 以前の制度は存じ上げないが、高齢化が進み介護される人が増えているのに対し、介護する人が少ないというのが現状であり、過去には検討段階で終わってしまったのかもしれない。今回の介護ボランティアポイント制度は、ボランティアをした人にポイン

トを付与し、たまったポイントで海老名市の特産品やトライアングル交流を行っている白石市や登別市の特産品等に交換できる制度と聞いている。

(委員) 22 ページの“生活保護費の支給”について、新聞等で不正受給が取りざたされているが、海老名市はそのような問題はないか。また、支給を決定する際は書類審査が主だと思うが、現地調査も行うのか。今現在何人程度受給を受けているのか。将来増える見込みなのか。

→ 細かい数値は今資料がないが、平成 25 年度の予算を取りまとめた中で、生活保護費については 21 億 8,300 万円程度の予算であり、平成 24 年度からの伸びが、以前の伸びに比べると少し落ち着いている。平成 26 年度以降どのように推移するのかわからないが、平成 25 年度については伸びが収まっている状況である。

(委員) 108 ページの目標指標の中で“生活保護受給者の就労支援者数”で、平成 23 年度が 130 人とあるが、イコール受給者数ではないのか。

→ 受給者数ではない。

(委員) 74 ページの“防災行政無線の整備”について、平成 25 年度は無線子局を 1 基設置することとなっているが、場所は決まっているのか。

→ 小野田レミコンの跡地に住宅街が開発されたが、既存の防災行政無線では聞こえにくい地域であるため、そちらへの設置を予定している。

(委員) 41 ページの“子ども医療費の助成”について、対象年齢拡大の検討が記載されているが、高校生までを対象とするよう検討するということか。

→ 現在中学 3 年生までを対象としているため、高校生を対象にすることを検討することにはなるが、何年生までを対象にするかも含めて検討することになる。

(委員) 41 ページの“私立幼稚園給食運営事業”について、食の創造館では 8,000 食を調理できるとのことで、現在小学校への給食として 7,200 食程度調理していると思うので、余裕のある 800 食程度を幼稚園へということだと思うが、実施したい幼稚園が既にあるのか。また、今後希望する幼稚園へも対応できるのか。

→ 3 園から希望を受けていると聞いているが、全クラスで実施するわけではなく、全日実施するわけでもない。

(委員) 海老名駅西口地区の区画整理事業が話題の中心になっているが、小野田レミコン跡地に約 150 区画の住宅地が形成され、J R 海老名駅と小田急・相鉄海老名駅の間の地区である駅間地区の開発にも高層マンションの計画があると聞いている。有鹿小学校や海老名小学校がパンク状態であると聞いており、また、教室を拡充するにしても敷地が狭い等困難な状況であると思うが、対策は考えているのか。

→ 具体的にどのような学区に生徒を振り分けるか、現在教育委員会で検討を進めているが、まだ結論は聞いていない。今回の平成 25 年度実施計画の中で教室を拡充する等の予定はないが、平成 29 年度までの後期基本計画の中では学校の再編についても視野に入れて検討する計画を打ち出しており、場合によっては現在 19 校ある小中学校の統廃合を検討することもあり得る。

(委員) 21 ページの“障がい者デイサービスセンターの建設等”について、平成 25 年度は、レインボードリーム及びかっぱ堂に太陽光発電設備を設置する旨記載されているが、建替え等の計画はないのか。また、太陽光発電は災害時のことも想定して設置するのか。

→ レインボードリームは社家小学校の前に新設した施設であり、かっぱ堂は望地にある施設を建替えたものであるが、太陽光発電を設置できる建物にしてあり、県の補助金を獲得できることが決まったため、設置することとなった。もちろん非常時にも使用することができる。また、北部公園の北側にあるあきば作業所も大分老朽化が進んでいるため、今後建替えが必要と考えている。

(2) その他について

現在、総合計画審議会の委員をお願いしているが、任期が今年度末までとなり、会議についても今回の会議が最後となる。後期基本計画の策定から、今回の実施計画の策定までご尽力いただき、お礼申し上げます。

3 閉 会

以 上